

第 23 号
2026 年 4 月発行
発行者
あさがお訪問看護ステーション
〒277-0861 柏市高田 825-8
Tel 04-7186-7010
Fax 04-7186-7011
E-mail asagao@arrow.ocn.ne.jp
<http://www.care-asagao.com>



みんなでリハビリ

福祉用具 ～トイレ周囲編～



担当 細田

今回はトイレまわりがあると便利な福祉用具と環境づくりのポイントについてご紹介します。環境を整えることで立ち上がりやスポンの上げ下げがスムーズになり、安全で行いやすい動作へと繋がります。どのような福祉用具や環境づくりができるのか一部ご紹介します。福祉用具を適切に利用し快適で安全な暮らしに繋がしましょう！
※福祉用具とは…介護や介助が必要な方の日常生活やリハビリ・機能訓練をサポートするための用具や機器のこと。

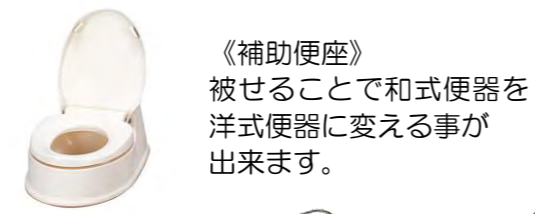
手すりを使って移動や座位、立位を安全に

《手すり》 方向転換や排泄、スポン操作時に支えになり動作が安定し転倒予防に繋がります。



便座を高くして立ちやすく

《補高便座》 座面を高くすることで立ちやすさに繋がります。



トイレに行かずに排泄する

《ポータブルトイレ》 ベッド横に設置することで移動が減り、介助負担軽減や転倒予防につながります。
《尿器》 ベッドで寝たまま排泄する事が出来ます。



《服の選び方》 スポンや下着を下ろすとき、ボタンやベルト、ファスナーなどは扱いにくいものです。腰はゴムで伸びやすい素材で少しゆとりのあるサイズが脱ぎ着しやすくなります。手すりを持ち立位姿勢を保つ必要がある場合は、片手で脱ぎ着ができる服を選びましょう。



福祉用具の利用には、介護保険が必要になります。レンタル方法や購入方法に関しては担当のケアマネジャーまたは、訪問看護師、リハビリまでご相談ください。
※トイレで用いる福祉用具は直接肌に触れる為、購入しご使用頂く商品も一部あります。

つるを絡ませて伸びていく『あさがお』

固い絆 愛情の絆 そして友情

地域に暮らす皆さまと手を取り合い

一緒に困りごとを解決していく

そんな存在でいたいと私たちは思っています



ボケ（木瓜）の花 訪問先のお庭で

今月のトピックス

- 看多機プチ講座その9 看多機を在宅サービスの選択肢に③
- カンタキあさがお～つれづれ写真日記～
- あさがおの取り組み
- 季節の便り
- みんなでリハビリ～福祉用具トイレ編～
- NEW FACE
- あとがき

あとがき

春の気配を感じる季節になりました。訪問の道中にも梅の花やメジロに出会い、小さな春を見つけ楽しんでます♪
環境の変化が多いこの時期は、心や体の不調も現れやすくなります。あさがおでは看護小規模多機能介護に加え、訪問看護ステーションも併設しており、ご本人やご家族の「いつもの暮らし」を切れ目なく支えています。小さな変化もお気軽にご相談ください。
これからも地域の皆様とともに、安心できる毎日と一緒に歩いていけたら嬉しいなあ…と思いを馳せながら三色団子をほおばる私です (▽▽) (広報担当)

NEW FACE



理学療法士
高橋 亮一さん

趣味はキャンプとバスケット観戦です。自然とスポーツから元気をもらっています。
仕事も楽しく一生懸命頑張りますので、これからどうぞよろしくお願ひします。
身体を動かして一緒にいい汗かきましょう！

《看多機プチ講座その9》

看多機を在宅サービスの選択肢に

最近、看多機の利用を終えることを『卒業』と呼ぶ動きがあります。看多機利用中のご家族さまの中には不安を感じる方もいます。私たちもその伝え方の難しさを感じ、実際卒業された利用者さまのご家族様にお話を聞いてきました。今後看多機の利用を考えていらっしゃる病院の相談員さんやケアマネさんにも看多機が通過点になるということをお伝えできたらと思います

《看多機プチ講座その9》
看多機を在宅サービスの選択肢に



卒業を決めた理由

一番多かったのは

サービス量が減った

こんな声も

来てくれる看護師さんやリハさんの変更がないから、楽だったよ

- ・病状が安定して元気になった
- ・介護に慣れて、看多機の利用頻度が減った
- ・医療的処置がなくなり、毎日看護師さんに来てもらう必要がなくなったから
- ・自宅に1人でおいておけなくなったから入居に切り替えた
- ・費用負担と利用頻度が合わなくなったから
- ・同居家族の生活環境が変わった

ご家族さま
インタビュー
してみました

皆様の意見が多かったのが、元気になること（ADL アップ）により、支援の量が減り卒業に繋がったということでした。また、その裏で状態が良くなられた利用者様において、看多機の『定額制という仕組みが結果として、経済的費用負担になってしまう』という点です。状態が安定した今、『実利用に即した通常サービス』へ移行することは、在宅療養の持続可能性を守ることと考えています。支援の質を落とさずに、より『負担の適正化』を図れるタイミングについて、今後も皆様と前向きにご相談させていただきたいと考えております。

こんなことも聞いてみました

在宅療養でご家族が大切にしていること

楽になること・安心すること

看多機を利用して感じたこと

施設の泊りについて

- ・安心できることで自宅介護療養が続けられること
- ・少しでも楽に暮らせること（安心できる環境）
- ・最期まで食べること
- ・家族でいること

元気だった時の親を思い出すよね

できるだけ介護して家に居られるといいね！

- ・契約が少なくて助かった
- ・制度が複雑
- ・家族も泊まれてよかった
- ・希望の曜日に泊まれないことがあった

こんな声も通院の付き添いがあつたら助かる

ご家族様の声を聞いて

当時の管理者にも話を聞いてみました

当時のことを思い出すと今でも涙が出るくらい色々なことがありました。コロナ化で使いたい時に使えず、急な予定変更、時にはスタッフの数が足りなくて送迎をお願いし、ご家族にもたくさん協力してもらいました。今でもご自宅の近くを通ると懐かしく当時のことを思い出します。今回久しぶりにお会いし感謝の言葉を言われた時に、私も家族介護をするようになったら、感謝できる家族になるうと思いました。卒業した皆さんと看多機で今度は家族会をしましょう！！

Good story ~家族でいること~

インタビューの中で、16年間奥様の介護療養を自宅で支えたご主人からお話を聞いた裏には、こんな考えがありました。

奥様は40代で難病を発症。その頃お子さんは小学生と中学生でした。

『僕らもまだ若かったからね、いろいろ諦められなかったし、子供たちにも母親は必要って考えがずっとありましたね。妻が施設に入ったら週末会いに行く家族になっちゃう。一緒に暮らしていたら大変だけど、変わっていく妻(母)を子供たちと見てくことで、覚悟できるかなって思ったし、こういう姿を見せていくことも大事になって。僕も仕事があったし、そういう(施設)選択もあったかもしれないけど、僕が思う家族の形を最期まで続けたいと思ってやってきた。16年間の介護は一言では言えないね。けど良かったよ〜楽しかった！』

シーンと
するお

インタビューにご協力いただいたご家族様
お忙しい中、貴重なご意見を聞かせていただき、また看多機までご足労いただいたご家族様、誠にありがとうございました

カンタキ「あさがお」 つれづれ写真日記

大堀川は3月下旬から
さくらの開花が見られました



〜少しずつ寒さも緩み、春の陽気に誘われて〜
「あったかくなったねえ」そんな会話を楽しみながら大堀川沿いをお散歩しました

お花の手入れタイムは
穏やかで、心もあたたかくなります



「この蜜柑あまいね」職員との
何気ない会話が、毎日の元気の源です

あさがおの取り組み

自転車は車!!

今回は「自転車と普通自動車の法改正について」の研修がありました。

皆さんは自転車が車道を走るようになり、危ない!と思ったことはありますか?また、このくらいはって無理な運転をしていませんか?

今年の4月から道路交通法改正となり、自転車も車も安全な走行を強く求められます。その背景には事故が増加していること、今までの注意では抑止力がないことが理由です。

歩道を自転車で通行するとき(子どもや高齢者は例外、車道走行が危険な場合は徐行可)、自転車を止める場所、交差点など、ルールを守ることが今まで以上に大切です。自分自身、周りの大切な人を守るためにもまずはルールを確認して安全に余裕を持って使いたいですね。

自転車は車に準ずる
左側通行
命を守るヘルメット



季節の便り



利用者様のお宅の庭に咲いた桜を綺麗ですねとながめていたところひと枝用意していただきました。まだ寒い日もありますがほっこり癒されますね。